

# 小学校家庭科を担当するための 教員養成・教科に関する科目についての検討(第3報) — 附属小学校における実践例の活用 —

濱崎良重\*・岡田 みゆき\*\*・小川 育子\*\*\*  
(附属坂出小学校) (家庭科教育) (家庭科教育)

\* 762-0031 坂出市文京町 2-4-2 香川大学教育学部附属坂出小学校

\*\* 現085-8580 釧路市城山 1-15-55 北海道教育大学釧路校

\*\*\* 760-8522 高松市幸町 1-1 香川大学教育学部

## Subject Curriculum for Home Economics Education in Elementary School Teachers Training Course III

### - Exploitation of Actual Curriculum of Attached Elementary School-

Yoshie Hamazaki\*, Miyuki Okada\*\* and Ikuko Ogawa\*\*\*

\*Sakaide Elementary School Attached to the Faculty of Education, Kagawa University, 2-4-2, Bunkyo-cho, Sakaide 762-0031

\*\* Present address: Kushiro Campus, Hokkaido University of Education, 1-15-55, Shiroyama, Kushiro 085-8580

\*\*\* Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

**要 旨** 地域素材を取り入れた実践的な小学校・教科に関する科目(家庭)(第1報, 第2報)を受講した学生に, 附属小学校で実践された地域素材を取り入れた年間指導計画と学習指導案を提示した。学生の感想を分析し, 小学校家庭科の授業についての理解を検討した。製作物に応じた布の選択など製作に関する学習に必要な視点や, 体験的な活動の導入, 日常生活での実践, 学習環境の整備など, 授業を構成する上で必要な視点をもつことができたことが明らかになった。

**キーワード** 小学校家庭科, 小学校教員養成, 教科に関する科目, 附属小学校における実践

#### 1 はじめに

本研究は, 小学校家庭科の教師に求められている教材を選択したり, 開発したりする力, さらにこれを用いて授業を構成する力などを育成するために, 「教科に関する科目」のあり方をに

ついて検討することを目的としている。

第1報<sup>1)</sup>では, 家庭科の内容のみを扱った「専門的講義」と, 「教材を構成する力」を視野に入れた「実践的講義」とを受講した学生に, 地域素材を使った題材を構成させて, 教材を構成する力の育成の効果を比較検討した。その結果,

「実践的講義」を受講した学生は、多様な素材を児童の発達段階に応じた素材選択、適切な目標の設定や題材構成、地域の生活習慣や文化などについての記載が多く、児童に地域の継承者であるという意識をもたせる工夫、各自の独自性などができており、教材構成力については「実践的講義」のほうが有効であるという結果であった。

第2報では<sup>2)</sup>、「専門的講義」「実践的講義」が、学生の家庭科や家庭科教育に関する意識にどのような影響を及ぼしたかを検討するため、それぞれの講義の事前・事後に、アンケート調査を行った。その結果、家庭科に対し、「実践的講義」の方が、「とても関心がある」、「関心がある」が増加した。また、教育実習で家庭科の授業をしてみたいと思う人の割合および家庭科を教科書通りに教えたくないと思う人の割合が、「実践的講義」受講者の方が、「専門的講義」受講者よりも有意に多いなど、「実践的講義」は、「専門的講義」より、学生の家庭科の授業に対する興味・関心を高めることができることが認められた。

一方、学生の家庭科における知識や技能あるいは学生自身の生活に関する改善や工夫についての学生の意識は、「実践的講義」でも「専門的講義」でも差はなかった。

このように、学生の授業を構成する力、学生の家庭科や家庭科の授業に関する興味・関心、学生の生活の変化などにおいて、「実践的講義」が良い結果が得られた。「実践的講義」は小学校の授業内容にできるだけ近づけて内容を構成した。しかし、大学生を対象として行われている限り、小学校の授業とは明らかに異なる。小学校では、実際に同じ地域素材がどのように教材化され、授業に展開されるかを認識することは重要であると思われる。

実際、日本教育大学協会「教育養成大学・学部における教科専門科目の在り方に関する調査」報告書の中にも、教育現場との関連性を重視する、小学校の教育実践に携わっている方との協力についてはかなりの教員により支持されている<sup>3)</sup>。

そこで、本報は、附属小学校と連携し、大学の授業で取り入れた地域素材（保多織）を小学校家庭科に導入し、どのように教材化され、授業に展開されたかを紹介し、家庭科の授業に対する学生の理解をはかろうとするものである。附属小学校の製作に関する年間指導計画やエプロンの学習指導案を学生に提示し、これに対する学生の感想を分析することによって、学生が小学校家庭科の授業の指導案を正しく把握することができたかを検討した。これらの結果をもとに、附属小学校における実践の活用の意義についても考察する。

## 2 研究方法

大学の「実践的講義」で取り入れた地域素材である保多織を、附属小学校家庭科担当教諭が教材化し、小学校家庭科の製作にかかわる年間指導計画とエプロンの学習指導案を作成した。その年間指導計画や学習指導案を「実践的講義」の受講者に対して最後に提示した。学生は、これらについて自由に感想を記述した。この感想の分析から、学生が小学校家庭科の目的や内容など授業について、指導案をもとにして、正しく把握できているかどうかを調査した。

### 2. 1 調査対象・調査時期

分析対象者は、2002年度前期「初等家庭」受講者、1年生2名、2年生93名、4年生5名、計100名である。講義は、2002年4月から2002年7月に行われた。

### 2. 2 附属小学校における教材開発

#### 1) 製作に関する年間指導計画

小学校家庭科の学習内容である「生活に役立つ物の製作」において、香川県特産の保多織が使用できるかどうかの検討を、附属小学校の家庭科担当教諭が行った。

附属小学校では、2年間に通常5回の製作活動を計画している。通気性が良く、丈夫な保多織は、特に夏の季節に相応しい織物であることから、表1のように、3つの題材において使用で

きるようにした。

最初は、5学年の6月中旬に行う「ティータイムグッズを作ろう」で製作するランチョンマットで使用することにした。縫いやすく、丈夫な保多織は5年生でも扱いが可能であり、頻繁に洗濯が必要なランチョンマットにも適切であることから提案した。

次は、6学年の6月中旬に行う「夏をさわやかに過ごそう」で製作するギャルソンエプロンで使用した。通気性に優れ、夏に相応しい保多織の特徴を最も生かした設定であり、児童全員が使用するように配慮した。

最後に、6学年3学期に行う「卒業の日に家族にプレゼント」の製作物で使用した。ここでは、扱う素材は児童の選択に任せられ、製作物との関連から選択するように配慮した。

「生活に役立つ物の製作」においては、日常生活で活用できるものを目的意識を持ちながら工夫して製作することや、製作物に応じた布を選択することを学習の目的としている。これらの目的を達成するために、児童が出会う多くの布の1つとして、児童の住む地域の特産物である保多織を紹介することが大切であり、保多織を使って製作すること自体が本来の目的ではない。つまり、この布の特徴や文化的な背景を理解し

た上で、製作物に相応しい布として児童が保多織を選択、使用できる状況を設定することが重要であると考えられる。以上のことから、製作に関する年間計画は、題材の目的に応じた製作物や素材を提案した。

## 2)「夏をさわやかに過ごそう」の学習指導案

6学年の1学期に行う題材名「夏をさわやかに過ごそう」では、児童全員が保多織を使用するように設定したが、これは、保多織の特徴が最も生かされた題材であることによる。このため、学習指導案も学生に提示することにした。なお、製作に関する年間計画によると、保多織は2度目の使用になるが、当該年はこの計画の初年度であるため、6学年の児童は初めて保多織を使用する機会となった。

表2は、題材名「夏をさわやかに過ごそう」の学習指導案で、ギャルソンエプロン製作に入る前、製作物や布を決定するまでの学習活動を示したものである。

この学習では、「児童や家族の生活が便利になったり、楽しい雰囲気を作り出したり、家族などの交流に役立ったりするものを製作する」、「衣生活への関心を持ち、さらに目的意識をもって製作する」、「製作するものの目的に応じて、適切な形や大きさを工夫する」、「布の扱い

表1 生活に役立つ物の製作に関する年間指導計画

時 期	題材名	製 作 物	扱う素材	技 能
5 学年 1 学期	ティータイムグッズ を作ろう	ミニランチョンマット (ビッグコースター)	シーチング フェルト 保多織	玉結び・玉止め、さしぬい・なみぬい、ボタン付け・まち針、模様付け
5 学年 2 学期	不用品のリフォームにチャレンジしよう	簡単リフォームワイシャツ クッションなべつかみ(環境にやさしい作品づくり)	不用品 ワイシャツ タオル地	ミシン活用、直線縫い・返し縫い、型紙、しるし付け・まち針
5 学年 3 学期	修学旅行で使う袋を作ろう	ナップサック小物入れ	キルティング デニム系	ミシンと手縫い、しつけ・三つ折り縫い・丈夫に縫う・箇所袋のまちづくり
6 学年 1 学期	夏をさわやかに過ごそうまかせてこれで快適に仕事ができるよ	ギャルソンエプロン貫頭衣風 シャツ(仕事着ファッション ショー予定)	保多織	体の寸法、型紙づくり・ポケットの工夫・三つ折り縫い・ひものつくり・洗濯：取り扱い絵表示をつける
6 学年 3 学期	卒業の日に家族にプレゼント	ウォールポケット ティッシュカバー コースター・クッション	多様	2カ年の総合的技能

の違いや特性に気づき、目的に応じた材料を選択する」などを目標として挙げた。

夏涼しく、快適に調理等の作業が出来るエプロンを製作するという授業は、「生活に役立つ、より快適に便利になるものを製作する」という目標が、学習活動に取り入れられように設定したものである。また、児童の生活に身近な給食エプロンの問題点を取り上げたことで、児童は「衣生活に関心を持ち、課題意識をしっかりと持って学習する」ことができると思われる。

布については、布の厚さ、織り方、性質など布の特性を学習した上で、製作物の目的にあった布が選択できるように配慮したのも、この学習の目標に合致させたためである。また、デザインの工夫の機会も児童に与えた。

さらに、香川特産の保多織を、サンプル布の一つとして取り上げるなど、児童が自然な形で保多織に出会えるように配慮した。とはいえ、保多織の文化的な背景や布の特徴を学習すると、児童は特別な思いをこの布に持ち、使ってみたいという気持ちになるのではないかと予想されるであろう。

### 3 結果および考察

#### 3.1 附属小学校の実践例に対する学生の感想

##### 1) 製作の年間指導計画に対する学生の感想

表3は、「製作に関する年間指導計画」に対する学生の感想を内容別に分類したものである。

表2 題材「夏をさわやかに過ごそう ?これで快適に仕事ができるよ?」

学習活動と児童の意識	指導上の留意点
<p>1 夏の衣服の問題点を出し合う</p> <p>夏、給食エプロンは袖もあって暑いなあ。スモックも暑いし、もっと涼しく汚れないすてきな仕事着があればいいな。体操服もTシャツだったら風通しがよくて涼しいのに…</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題意識をしっかりとつことができるように、夏着ているもので快適でない身近なエプロンなどを着て体験を語らせる。</li> <li>快適に仕事ができるようになりたいという願いを語らせ、製作への意欲につなぎたい。</li> </ul>
<p>2 原因を布の特性からつかむ</p> <p>暑さや織り方、糸の種類・大きさによって涼しさって変わるんだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通気性に気付くように、快適でない衣服の特徴をまず五感でとらえることができるように、端切れの布を腕にのせたり、透かしたり、伸ばせたり、折ったりして見せて感想をもてるようにする。</li> </ul>
<p>3 それぞれの布の特性から何に活用すると効果的かを話し合う</p> <p>綿メリヤスは、エプロンには適していないなあ。涼しそうな保多織でエプロンを作ったら、快適そうだな。</p> <p>・香川の特産品「保多織」について知り、いつ、何に活用すると効果的かを話し合う</p> <p>模様は地味だけど、おばあちゃんやお母さんに作ってあげたら喜ぶかな。透けて見えるし、色も落ち着いていて涼しそうな感じだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンプルとして、綿ギンガム、ブロード（平織り）、保多織、ソフトデニム（綾織り）、綿メリヤス、綿とポリエステル混合を準備し、違いを表にまとめさせて、布の特性の観点を表出させる。</li> <li>どんな物に活用されるといいかを考えられるように通気性や吸水性の実験を行う。</li> <li>涼感がある布の特徴をまとめさせた後、保多織について香川の特産品であることや利用され方を説明する。</li> </ul>
<p>4 自分が製作したいものを決定し、どの布にするかを決定する</p> <p>保多織でサマーエプロンを作ろう。難しいかもしれないけど、シャツを作りたいな。工具を入れるエプロンだから涼しさよりも丈夫さを優先して、ソフトデニムにしようかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が作りたい物を決定できるように、見本を展示しておく。</li> <li>作りたいものをどの布で作るか決定できるように、選定した訳をカードに書かせ、作りたい物の第一の目的を優先して布を選ぶ意思決定のしかたを身に付けさせたい。</li> <li>夏を涼しく過ごすために、デザイン、布の選択をどう決定したか、発表させ、工夫を学び合わせる。</li> </ul>

目標：夏、涼しく快適に調理等の作業をするために、どんなデザインにし、どんな布を選択したらよいかを、香川の特産である保多織や他の布の通気性等を比較して決定できる。

表3から、題材についての感想が最も多いことが分かる。感想の内容を見ると、「目的がはっきりした題材構成である」(27例)が最も多く、学習の目的を達成するために題材が構成されているということが、学生に認識されていた。現場の教師でも、製作に関する題材では、製作することが主眼で題材の目的を持たなかったり、明らかにできなかつたりする場合が多い中、学生が学習の目的の重要性を認識できたことは意義深い。

次に多かった感想は、「『不用品のリフォーム』は環境問題を踏まえた良い単元」(25例)で、学生が題材の良否についても考えられたことがわ

かる。この他、「2年間でいろいろな種類の生地に触れることができる」(17例)、「単純なものから複雑なものへ、技能の段階を踏まえた題材作りになっている」(15例)などが挙げられていた。

「生活に役立つ物の製作」における学習指導要領の配慮事項である「2学年にわたって平易なものから多少複雑なものへ段階的に扱うこと」や、「製作物に応じた布を選択できるようにすること」などを踏まえて、学生が感想を述べており、学生は教師の立場から、年間指導計画を検討し、製作に関する学習において重要であると思われる視点についても認識していることが、この感想から読み取ることができる。

表3 製作の年間指導計画に対する学生の感想

	感想の具体的な内容	例
単元 145	目的がはっきりしている題材構成である	27
	「不用品のリフォーム」は環境問題も踏まえたよい題材である	25
	2年間でいろいろな種類の生地に触れることができるようになっている	17
	単純なものから複雑なものへ、技能の段階を踏まえた題材作りになっている	15
	生活にむすびついた題材名が付けられている	11
	題材名が「…しよう」と子どもを誘うような表現がよい	10
	「修学旅行で使う袋」は、修学旅行への期待を高め、また役に立つのでとてもよい	10
	「家族にプレゼント」という題材は、思いやりの心が育ち、とてもよい題材である	9
	子どもの個性を大切にしたい題材作りになっている	6
	季節感のある題材作りである	5
	ファッションショーをやるとつくる意欲がでてよいと思う	3
	「仕事着ファッションショー」は、楽しい題材でとてもよい	3
	製作教材でも、住生活や環境などを含めて題材作りをしているところがよい	2
	題材名と製作物との関係がわからない(「ティータイムグッズを作ろう」とランチョンマット)	2
製作 55	実際に活用できるものを製作している	22
	製作物の幅を広げた方がいい	9
	子どもの興味を持てる製作物に気を付けている	7
	「不用品のリフォーム」でワイシャツからクッションを作るのはいいアイデア	6
	目的(修学旅行で使う)をもって製作するのはいいがうまく出来ない場合は苦痛にも	4
	ギャルソンエプロンなど、流行もよく取り入れられている	3
	製作物に洗濯取り扱い表示をつけるなど、一歩踏み込んだ課題を取り上げている	1
	ミシンを使用してから、手縫いのものがあるが、子どもたちはやりたがらないのでは	1
	「不用品のリフォーム」は最初のミシン教材なのに、ワイシャツの生地は縫いにくい	1
保多織 41	「不用品のリフォーム」では、家族ではなく自分の不用品を扱ったほうがよい	1
	各学年で保多織を使い、地域を身近に感じたり、地域の知識を増やしたりする工夫がされている	22
	保多織の特徴である「さわやかさ」が児童に理解できるように使用している	6
	保多織でエプロンやミニランチョンマットを作るのは薄すぎる	3
	ミニランチョンマットでボタン付けをどのように教えるのかは疑問	2
布地 9	保多織でエプロンを作るのは汚れを見えなくし、衛生的でない	1
	素材選びをすることで、興味・関心が深まるのではないか	5
	市販の布地を使わず、自分の身の回りや自分の生活に密着した素材を用いているところがよい	2
	目的や季節にあった布を使用している	2

次に多かった感想は、製作についてであった。感想の内容として最も多かったのは「実際に活用できるものを製作している」(22例)であった。児童や家族の生活が便利になったり、楽しい雰囲気を作りだしたり、家族などの交流に役立ったりする物、つまり日常生活に役立つ物を製作しなければならないことについても、認識されており、この視点から感想を述べている。また、「子どもの興味が持てる製作に気を付けている」(6例)、「製作の幅を広げた方がいいと思う」(6例)などから、児童の興味や関心を考慮して題材を設定する必要があることも、理解されていることがわかる。

保多織の感想で、最も多かったのは「各学年

で保多織が使われていて、地域を身近に感じたり、地域の知識を増やしたりするなど工夫されている」(22例)であった。児童の住む地域の特産物である保多織を紹介することや、それを通して、地域を身近に感じたり、知ったりすることが大切であると認識されている。つまり、地域教材のよさや意義を理解できていることが推定される。また、「保多織の特徴であるさわやかさを子どもたちが理解できるように使用している」(6例)では、布の特徴を理解させることや、布の特徴から製作物に相応しい布を選択、使用できるようにすることも重要であると考えていることがわかる。

布地全般に対する感想は少なく、「素材選びを

表4 「夏をさわやかに過ごそう」の学習指導案に対する学生の感想

	感想の具体的な内容	例
製作 72	布の特性をつかんで、製作するものを考えているところがよい	22
	自分の選択肢があるところがよい	13
	袖のないエプロンは適していないのではないかなど、エプロン製作に関する意見	12
	見本を展示することがよいと思う	9
	保多織りの特性をうまく生かしている	6
	デザインが自由にできるところがいい	5
	デザインを子どもに考えさせるのは無理だと思う、いくつかのパターンを教師が用意すべきでは	5
活動 内容 74	実際に、布に触ったり、比較したりしているところがよい	36
	目的を優先して布を選ばせ、カードに理由を書かせるのがよい	14
	通気性や吸収性の実験がよい	10
	衣生活だけではなく、家族についても触れられているところがよい	8
	利用の仕方は、自分たちでも考えさせたり、調べさせたりすべきでは	2
	ファッションショーを加えると、子どもの意欲につながると思う	2
	保多織りの問題点も取り上げるべき	1
	布の特性をつかむところでは、家庭で様々な服を着たり、触ったりして、それを発表してもよい	1
	夏の衣服の問題点で、実際に家庭で使っているエプロンの問題点を挙げさせる方法もある	1
	他の都道府県の特産物の布を取り上げると、さらに布に対する興味はわくと思う	1
授業 構成 73	給食のエプロンや体操服など、子どもの身近なものを問題点として取り上げ、導入したのがよい	34
	保多織りに触れながら、授業を展開しているところがよい	19
	児童の活動を中心に、構成されているところがよい	6
	無理やり保多織りにつなげているように思われる	5
	題材のテーマ自体がおもしろい	2
	お互いの工夫を学び合わせるために発表を導入しているところがよい	2
	導入は1時間でいいと思う	2
	布の比較では、実験も加えて、子どもたちにまとめさせると2時間は必要であると思う	1
	「冬を暖かく過ごそう」という逆のパターンもあってよいと思う	1
	問題点から入るよりも、夏服や服装から考えるほうが自然なのではないか	1
布地 22	快適なだけでなく、目的と素材との関係もしっかり教えるべき	11
	布を実際見せるより、実際服になって使われているものの方がよい、など布のサンプルの提示の仕方について	10
	布の構造とデザインの両方を考えたら、適した布は見つからないのでは	1

することで、興味・関心が深まるのでは」(6例)などが挙げられていた。

## 2) 「夏をさわやかに過ごそう」の学習指導案に対する学生の感想

表4は、「『夏をさわやかに過ごそう』の学習指導案」に対する学生の感想を、内容別に分類したものである。表4から、活動内容についての感想が最も多いことが分かる。

感想の内容を見ると、「実際、布に触ったり、比較したりすることがいい」(36例)が最も多く、体験的・実践的な活動を取り入れることを重視している家庭科の特質が理解されていると思われる。次に多かった感想としては、「目的を優先して布を選ばせ、カードに理由を書かせるのがよい」(14例)、「通気性や吸収性の実験がいい」(10例)が挙げられる。ここでも、年間指導計画の感想と同様、目的を持って製作させること、目的にあった布を選ばせること、さらに児童に製作の目的や布の特性を意識付けけるために、カードが有効であることも理解されていた。

次に多かった感想は、授業構成についてであった。「給食のエプロンや体操服など、子どもに身近なものを問題点として取り上げ、導入したのがよい」(19例)であった。つまり、児童に衣生活について関心を持たせるためには、日常着を取り上げ、日常生活で実践できるように配慮しなければならないことを学生は認識し、この視点から感想を述べていることがわかる。また、「保多織に触れながら、授業を展開しているところがよい」(19例)から、地域教材のよさを理解していることはもちろんのこと、地域教材や授業の展開の仕方についても関心があることがわかる。

製作の感想で最も多かったのは、「布の特性をつかんで、製作するものを考えているところがよい」(22例)で、指導計画の感想と同様、布の特徴を理解することや、布の特徴から製作物に相応しい布を選択、使用できるようにすることの重要性にも気づいていることがわかる。また、「自分の選択肢があるところがよい」(13例)、「見本を展示することがいい」(9例)など、児

童が主体的に学習したり意思決定できるような機会を与えたり、学習環境を整えたりすることの必要性も理解していることがわかる。この他「袖のないエプロンは適していないのではないか」(8例)など、エプロンの用途目的を考え、エプロン製作に関する意見も出されていた。

布に関する感想で最も多かったのは「快適なだけではなく、目的や素材との関係もしっかり教えるべき」(11例)で、児童が様々な目的に応じて材料を選択できるようにすることが大切であると学生が認識していることがわかる。また、「布を実際見せるよりも、実際に服になって使われているもののほうがよいのではないか」(10例)と児童が布や日常着に対して、より興味を持ち、その性質が理解できるように、サンプルの提示のしかたについての意見も出されていた。

このように、学生は、布を用いた製作物の授業を構成する上で必要と思われる多くの視点から感想を述べていた。

## 3. 2 附属小学校の実践の活用の意義

附属小学校の家庭科担当教諭が、適切な製作に関する年間指導計画と「夏をさわやかに過ごそう」の学習指導案を提案したことにより、学生は大学の講義で学んだ地域素材(保多織)が小学校家庭科でどのように教材化され、授業に展開されるのかをより深く実感し把握することができたと思われる。

また、年間指導計画や学習指導案に対する学生の感想が、授業の目標、構成の仕方、活動内容、教材観など多くの視点から述べられていたことから、適切な年間指導計画や学習指導案を提示したことにより、授業を構成する上で必要な新しい見方に気付いたということも推定される。つまり、小学校の家庭科の学習内容や授業にする上での配慮事項、教師の支援の仕方などについて、指導計画や指導案を通して、より具体的に知ることができていたと考えられる。

提案した年間指導計画や学習指導案に対する学生の感想からは、学生が小学校家庭科の授業を、指導案からでも正しく理解することができ、かどうかが把握でき、さらに学生の授業を構

成する力についても、一部その評価が可能であった。

このことは、「実践的講義」の有効性についての評価でもあり、新たな改善案を考える上での資料にもなり得る。以上のことから、附属小学校における実践例の活用意義は大きいと考えられる。

#### 4 要約

附属小学校と連携を図り、大学の実践的講義で学習した地域素材（保多織）を取り入れた製作に関する年間指導計画と「夏をさわやかに過ごそう」の学習指導案を以下のように提案した。

- 1) 附属小学校の製作に関する年間指導計画を、題材の目的から製作物を取り上げるように配慮した。地域の特産物である保多織は夏の季節に相応しい織物として、3つの題材において取り上げた。
- 2) 題材「夏をさわやかに過ごそう」では、「生活に役立つ、より快適に便利になるものを製作する」という目標から、夏のエプロンの材料として保多織を取り上げた。保多織の特徴が生かされ、児童が自然な形で保多織に出会えるように配慮した。

この年間指導計画と学習指導案に対する学生の感想から学生が小学校家庭科の授業を指導案から理解することができたかを検討した。結果は、以下に示す通りである。

- 1) 学習の目的の重要性、目的から製作物を選択、多くの種類の生地に触れる、技能の段階を踏まえた題材作り、製作物に応じた布の選択など、製作に関する学習に必要な視点が認識されていた。
- 2) 体験的・実践的な活動の導入、日常生活での実践、学習環境の整備、地域教材の導入、児童の主体的な学習の促進など、授業を構成する上で必要な視点も認識されていた。
- 3) さらに、年間指導計画と学習指導案が提案されたことで、小学校の家庭科の学習内容、授業の配慮事項、教師の支援の仕方などについて、より具体的に知ることができていた。

以上の結果から、附属小学校における実践例を活用することで、学生は小学校家庭科の学習内容や授業をより具体的にイメージすることができたと考えられる。つまり、授業を構成する力をつけるためには、実際の小学校家庭科の授業について具体的なイメージがもてることが重要であり、そのためには、現場との連携はひじょうに重要である。

しかしながら、このような現場との連携には、前もって、家庭科の目標、授業構成の仕方、教材の知識などについての学習が不可欠である。これまでも、学生は学校教育入門、研究会、教育実習等、少ないながらも小学校の授業を見学したり、指導案を目にしたりする機会も持っている。しかし、学習素材がどのように教材化され、授業に構成されるのかを学習していないと、授業の目的は何か、授業構成で工夫されているのはどこか、授業で取り入れられた学習活動の意義はなにか、それぞれの教材の持つよさは何かなどの、広い視野から授業を見ることができているかどうかは明らかではない。授業をする上での配慮事項、教師の支援の仕方など細かな点についてはほとんど気付くことができていないのではないだろうか。

今回、「実践的講義」により、学習素材が授業に構成される過程を学生が学習したことで、附属小学校の家庭科担当教師が提案した年間指導計画や学習指導案についても、理解、評価ができ、さらに年間指導計画や学習指導案からだけでも、授業を構成する上で必要な配慮事項や教師の支援の仕方などの視点に気付くことができたと考えられる。

以上、「実践的講義」に、附属小学校での実践例を活用することにより、学生の授業構成能力、家庭科や家庭科の授業における興味・関心、地域素材や教材開発についての関心を高めることができた。また、教師という立場で授業を受けるなど能動的に授業に取り組む学生が増えたことも大きな成果であった。しかし、授業改善により小学校家庭科に関する知識や技能の内容について全てを網羅できなかったこと、新たな地域教材の開発、より有効な附属小学校との連携



などは、今後の検討課題である。さらに、学生の教科指導能力を育成するために、小学校の教科に関する科目の改善を試みていきたい。

#### 引用文献

- 1) 岡田みゆき他, 小学校家庭科を担当するための, 教員養成・教科に関する科目についての検討(第1報) 家庭科や家庭科教育に対する意識を高めるために, 香川大学教育実践総合研究, 10, 59-68, 2005.
- 2) 岡田みゆき他, 小学校家庭科を担当するための, 教員養成・教科に関する科目についての検討(第2報) 専門的講義と実践的講義が学生の意識に及ぼす影響, 香川大学教育実践総合研究, 10, 69-76, 2005.
- 3) 教科教育学に関する検討部会, 教員養成系大学・学部における「教科専門科目」の在り方に関する調査, 日本教育大学協会第二常置委員会, pp.16-18, 2003.